第１学年道徳学習指導案

日　時　　平成１８年１０月１２日（木）５校時
学　年　　１年A組（男子１４名　女子１３名　計２７名）
授業者　　小　原　祐理子
Ｇ　Ｔ　　大川目地区主任児童委員　　髙　谷　淳　子

１　主題名　　支えあって生きる　（２－（２）　感謝・思いやり）

２　資料名　　「愛，深き淵より」　（みんなで生き方を考える道徳　１年　日本標準）

３　主題設定の理由

（１）価値について

本時の主題「支えあって生きる」に関して，学習指導要領の内容項目では「温かい人間愛の精神を深め，他の人々に対し感謝と思いやりの心をもつ。」となっている。ここに述べられている感謝の心とは，他の人から受けた思いやりに対する人間としての心の在り方のことであり，他の人からの思いやりを素直に受け止め，多くの人々によって支えられていることを自覚することであると考える。そして，思いやりの心とは，自分が他の人に働きかけるときに必要な心の在り方であり，他の人の立場を尊重しながら，親切にし，いたわり，励ます生き方であると考える。

人間は互いに助け合い，協力し合って生きているものなのだが日常生活において，とかく利己的，自己中心的な行動をとりがちで，他の人の支えを意識することは少ない。特にも中学生の時期は，親の愛情をわずらわしいものと感じたり，他の人からの思いやりを素直に受け止められなかったりしがちである。中学生になり，心も体も成長し始めた１年生のこの時期に，感謝と思いやりの心について取り上げ，互いに助け合い，協力し合って生きていることを実感させ，これからの生活に役立てたいと考える。

（２）生徒について

本学級の生徒は小学校のころから単学級で過ごしてきており，気心が知れていて仲がよい反面，固定した見方にとらわれがちなところがある。また，学年当初はやや自己中心的な行動も見られた。しかし，１学期の様々な行事を通し，中学生としての意識も強くなってきており，学級で協力しながらよりよいものを目指していこうという意識も生まれてきている。互いの立場を尊重しあい，感謝と思いやりの心について学ぶにはよい時期だと考える。

道徳性検査「ＮＥＷ　ＨＵＭＡＮ」によると，道徳性ＳＳの学級平均は５７．２であり全国基準値５０．０に比べて高く，標準偏差（ＳＤ）は全国基準値１０．０より小さいと判定されているので，道徳性の平均水準は高く，散らばりも小さい学級であるという結果が出ている。特にも「２－（２）感謝」については全国平均を大きく超えていた。

道徳に関する意識調査でも「感謝や思いやり（を大切にして生活できる）」について「できている」が２０人と高い結果が出た。しかし，具体的な質問ではないこともあり，実生活と結びついた結果であるとは言い難く，取り立てて指導する必要があると考える。

（３）資料について

この資料は三つの構成からなりたっている。第１は星野さんがどんな状況の中で体が不自由になったのかについて，第２は星野さんが筆を口にくわえて描いた絵や詩（２編）について，そして，第３は星野さんが絶望の中から確信した「強い生き方」「感謝の心」（星野さんの文章）についてである。第１では，星野さんの９年間にわたる闘病生活と，それに付き添った母の姿を知り，第２では，星野さんの母への愛（感謝）を感じ取り，第３では，星野さんのたくましく生きる姿や精神を知ることを通して，感謝・思いやりの心情を養いたい。

4　指導の構想

（1）ゲストティーチャーの活用について

　髙谷淳子氏は，昭和４０年代から障害者とともに活動しようというボランティア活動を続けており，現在は大川目地区の主任児童委員である。小学生対象の「みどりの子供会」や中学生を対象としたボランティア活動グループ「ブロッコリー」などの企画運営をはじめ，様々な形で大川目の子ども達を育てる活動を行っている。

　本授業では氏の様々な活動の中の一つである「障害児への訪問教育」について話していただく。障害児とのふれあいの中から多くのことを学んだという実体験を語っていただくことで，資料から学んだことがよりいっそう深められ，生徒の心を動かすことができると考える。

（2）授業の展開と心のノートの活用について

　本授業は，読み物資料前半を使い星野さんとお母さんの関係から「感謝の心」と「思いやりの心」について考える１時間と，読み物資料後半とゲストティーチャーのお話から前時の気づきを深める１時間からなる，２時間扱いの構成とする。読み物資料の星野さんの生き方を通して「感謝の心」と「思いやりの心」について気づかせ，ゲストティーチャーの体験談などのお話を聞くことで，生徒の考えをさらに深めさせたいと考える。

　心のノートについては，本授業の前に「思いやる心は，きっとあたたかい（ｐ４４）」を記入させ，今までの生活経験を振り返らせることと，授業後の気づきを「Free　Space」に記入させることで生徒一人ひとりの変容を見取る一助としたい。

（3）指導計画（２時間扱い　　本時２／２）

時　間	学　習　内　容	ね　ら　い	評　　価
1	・資料前半と詩を読み，星野さんの母への「感謝の心」と「思いやりの心」について考える。	・星野さんが味わった絶望感と，その後生きる希望をつかんだことを知らせ，闘病生活をずっと支え続けた母への「感謝の心」と「思いやりの心」について考えさせる。	・「感謝の心」と「思いやりの心」について考えることができたか。
2 （本時）	・資料後半を読み，星野さんが気づいたことについて考える。 ・ゲストティーチャーの体験談を聞き「感謝の心」と「思いやりの心」について考えをまとめ発表する。	・星野さんの生き方やゲストティーチャーの体験談を通して「感謝の心」「思いやりの心」を知り，あたりまえと思えることでも支えてくれる人がいることに気づき，感謝し，よりよく生きていこうとする心情を養う。	・星野さんの生き方やゲストティーチャーの体験談を通して「感謝の心」「思いやりの心」を知り，あたりまえと思えることでも支えてくれる人がいることに気づいたか。 ・周りの人々に感謝し，よりよく生きていこうとする感想を持つことができたか。

5　本時の指導

（1）　ねらい

　星野さんの生き方やゲストティーチャーの体験談を通して「感謝の心」「思いやりの心」を知り，あたりまえと思えることでも支えてくれる人がいることに気づき，感謝し，よりよく生きていこうとする心情を養う。

（2）　本時の展開

段階	学習内容と主な発問	期待する生徒の反応	指導上の留意点
導入 （5）	1　前時を簡単に振り返る。 ○星野さんはどうしてお母さんのことを詩画にかいていたのだろう。	・星野さんは自分を支えてくれているお母さんにとても感謝しているから。	・ＧＴは日常的に関わっている方なので，担任が簡単に紹介し元気にあいさつをさせ授業にのぞませる。
展開 (35)	2　資料後半を読み，心のしかけについてまとめる。 ○人の心にはどんなしかけがしてあるのだろう。	・苦しかったことを楽しく思い出せるしかけ。	・資料を読む前に「心のしかけ」を見つけるよう指示を出しておく。 ・板書に図式化してまとめ，理解を助ける。
	3　資料の最後の文章から，星野さんのメッセージを読みとらせる。 ◎星野さんは何を失い，何を与えられたのだろう。 ・学習プリントに記入する。	・体の自由を失ったがもっともっと大切なものを与えられた。 ・「感謝して生きること」を与えられた。 ・たくさんの人に支えられて生きていることに気づくことができた。	・体の自由は失ったがその代わりに今までは気づかなかった「多くの人々の支え」に気づき，感謝して生きている星野さんの姿をとらえさせる。
	4　ゲストティーチャー（ＧＴ）のお話を聞き，星野さんの生き方から学んだことを深める。 【髙谷さんのお話】 ・「けんちゃん」の紹介 ・タンバリンの話 ・おばあちゃんにとっての「けんちゃん」の支え	・人間は相互に関わって生きている。 ・愛情（思いやり）を受ければ，その分を返そうとする。（感謝） ・人はもともと感謝や思いやりの心を持っているのに忘れがちだ。 ・自分もたくさんの人に支えられて生きているのかもしれない。	・ＧＴに引き継ぐ前に星野さん（有名人）からけんちゃんとおばあちゃん（一般の人）へ，そして最終的には自分へと視点を変えて考えられるように，話を聞くポイントを与えておく。
終末 (10)	5　学習プリントの記入・発表 ○星野さんの生き方や髙谷さんのお話から学んだことについて考えをまとめよう。	・ふだんあたりまえと思っていることでもたくさんの人に支えられていたことに気づいた。 ・自分には自由に動く体があるから，これからもっと力を発揮していきたい。	・書く時間を十分保障した上で，可能な限り発表させる。

（3）評価

ア　星野さんの生き方やゲストティーチャーの体験談を通して「感謝の心」「思いやりの心」を知り，あたりまえと思えることでも，支えてくれる人がいることに気づいたか。

イ　周りの人々に感謝し，よりよく生きていこうとする感想を持つことができたか。

7　資料分析図

主要場面	・中学校の体育教師となってわずか２ヶ月で肩から下の自由を失ったが，絶望の淵から生きる希望を見つけることができた。	・口に筆をくわえて字や絵をかけるようになり，母への感謝の心を詩と絵に込めて作品をつくっている。	・９年間の闘病生活の中でたくさんの人々に支えられて生きていたことに気づき，感謝と思いやりの心を持って生きている。
主人公の心の動き	・命は助かったが，自由にならない体に幻滅し，自暴自棄になり生きる気力もない。（絶望感） ・口に筆をくわえてかくという生きる希望を見つけることができた。	・母親の献身的な看病をありがたいことであると受け止め，感謝している。 ・感謝の心を詩画作品の中に込めて表している。	・体の自由を失い，初めて多くの人々に支えられ生きている事に気づいた。 ・感謝の心を持ち，思いやりの心を忘れずに，詩画作品を作り続けている。
生徒の反応	・中学校の体育の先生だったのに，肩から下が動かなくなってしまうなんて，どんなに辛かっただろう。とても想像できない。 ・生きる希望を見つけるとがんばることができるのだ。	・たった一度だけ動く腕をお母さんのために使いたいと思うほど，感謝しているんだ。 ・いつも星野さんを支えてくれているお母さんに恩返しがしたいと思っている。	・体の自由を失ったために，たくさんの人々に支えられて生きていることに気づいた。 ・支えてくれている人々に感謝している。
気付かせたいこと	・体の自由を奪われた絶望感と，その中で「口に筆をくわえてかく」という生きる希望を見つけることができた喜びを感じ取らせたい。	・「たった一度だけ」という言葉に注目させ，星野さんがどんなに，自分を支えてくれている母親に感謝しているのかを理解させたい。	・体の自由は失ったが，その代わりに今までは気づかなかった「多くの人々の支え」に気づき，感謝して生きている星野さんの姿を知らせたい。 ・自分も多くの人々に支えられて生きているということに気づかせたい。
発問	○闘病生活中の星野さんの気持ちを考えよう。	○たった一度だけ腕が動くとしたら，母の肩をたたかせてもらいたいと考えたのはなぜだろう。	◎星野さんは何を失い，何を与えられたのだろう。

前時　（　1／2　）　　本時　（2／2）

6　板書計画

愛、深き淵より　　星野　富弘

つらい
苦しい
さびしい
病室の天井
死にたい

励ましの言葉
大変明るい手紙　心のしかけ
窓辺の花
生きろ！

与えられたもの　　失ったもの
もっともっと大切なもの　　体の自由

たくさんの人々に
支えられて生きていること

感謝すること

思いやること

絵・詩をかき続けている

第２学年道徳学習指導案

日　時　平成１８年１０月１２日（木）　５校時
学　級　２年Ａ組(男子１１名　女子１６名　計２７名)
授業者　阿部　弘樹
Ｇ　Ｔ　（有）谷地林業代表取締役　谷地　忠一

１　主題名　　困難に打ち克つ「強い意志」（１－（２））

２　資料名　　「土俵にかける思い」（自作資料）

３　主題設定の理由

（１）　価値について

価値項目１－（２）は、「より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志を持つ」ことを目指している。

人間は、希望と勇気をもって生きる崇高な生き方に憧れをいだいている。「自分はこうなりたい」とか「自分はこう在りたい」という思いを持っている。それに近づこうと意欲的に取り組むようになる。しかし、障害や困難に直面すると簡単に投げ出したり逃げ出したりなど挫折してしまうこともあり、理想どおりにいかない現実に悩み苦しむことも多い。「やってみよう」「頑張ってみよう」という向上心はあっても、つい自己弁護して安易な方向に向いてしまう。困難に立ち向かうことなく、「だってこういう状況だったから」と理由付けをして、自己を肯定的に包み込んでしまう。せっかく抱いた向上心を大切に育て、成就感を味わわせるためにも、強い意志と態度を育てることが大切であると感じる。

（２）　生徒について

道徳意識調査によると、「目標に向かって最後までやり通しますか？」という質問に、①必ずやり通すと答えた生徒は４人のみであった。また「目標を持って勉強や部活動を頑張っていますか？」という質問に、①よく頑張っていると答えた生徒も９人であった。このことから、強い意志や理想の実現という困難に打ち克つねばり強さが不足していると思われる。日常生活でも、自分の好むことに対しては意欲的に取り組んでいるが、何か困難なことにぶつかると、乗り越えようと頑張ることより、投げ出したり逃げ出したりする生徒も少なくない。

本学級の生徒たちにとって、困難に屈しないでねばり強く最後まで着実にやり抜く強い意志と態度を育てることが大切であると考える。

（３）　資料について

本資料は、久慈市（旧山形村）出身の栃乃花関の『土俵にかける思い』を自作したものである。栃乃花関が三役小結まで昇進した後に、十両に落ち、けがに悩ませられながら過ごした２年半の間の幕下生活の様子を資料化した。栃乃花関は一度三役小結まで昇進したが、けがを機に幕下に転落する。そして、幕下で思うように自分の相撲を取れない苦しさの中でも、自分のペースで稽古し、一番一番を大切に集中して取り組む地道な努力があった。栃乃花関の姿を通して、困難に立ち向かうことの大切さを感じ取らせ、自分自身を振り返る機会としたい。

4　指導の構想

事前の取り組みとして、生徒達は相撲についての知識が十分でないことから、番付のことや横綱や三役のことを教えた。また、資料を読んだだけでは栃乃花関が小結まで昇進した偉大さが伝わりにくいと思い、取り組みや会見発表のビデオを見せ、身近な力士の活躍を知らせた。

導入では、前時で紹介した「栃乃花関はどんな活躍をしたか？」想起させる。また、ゲストティーチャーの紹介も行う。

展開では、自作資料を読み、幕下まで転落した栃乃花関の生活ぶりや気持ちについて考えさせていく。その中で、どんなに大変だったか、どんなにつらかったかを十分に考えさせるとともに、それでも、くじけずに困難を乗り越えようとする強い気持ちを持ち続けたことに気付かせたい。

終末では、ゲストティーチャーの谷地忠一さんの講話を聞いて、それから気付いたことや感じたことを書かせるとともに、『くじけそうなときに必要なもの』をまとめ、発表させていきたい。

ゲストティーチャーの谷地忠一氏は、栃乃花関の父親である。息子の生き方や考え方を認め、見守る第一の理解者である。父親として、目標に向かって頑張る息子の姿と生徒の将来の可能性についてお話していただくことで、考えを深めさせたい。

5　本時の指導

（1）　ねらい

栃乃花関の相撲生活を通して、困難を乗り越えてやり抜く強い意志の大切さを感じ取り、それを自分の課題としてとらえることができる。

（2）　本時の展開

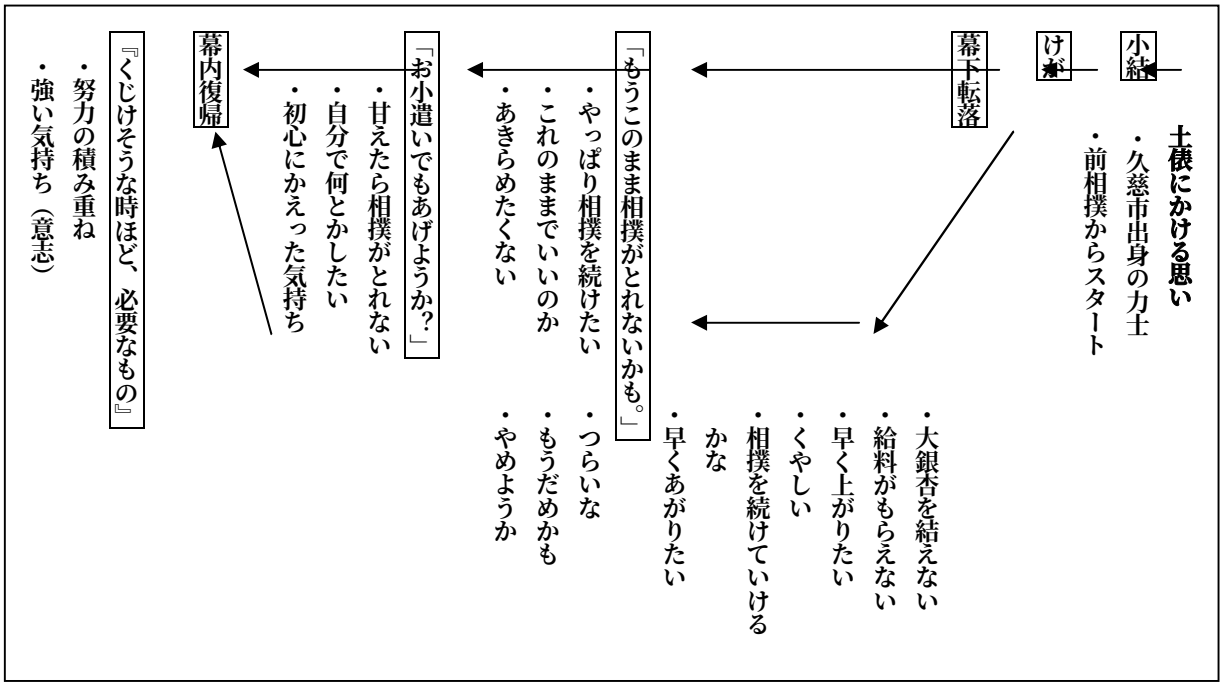
段階	学習内容と主な発問	期待する生徒の反応	指導上の留意点
導入 （5分）	1　栃乃花関の活躍を振りかえる。 ○栃乃花関はどんな活躍をしているか？	・小結まで昇進した力士 ・前相撲からスタートした力士 ・番付表に大きく名前が書いてあった力士 ・久慈市出身力士	・想起しやすいように補助発問をし、紙板書で提示する。
	2　ゲストティーチャーを知る。	・栃乃花関のお父さんだ。	・紹介は教師が行う。
展開 （25分）	3　資料を読む。	・こんなすごい人もこういう大変なことを体験している。	・資料を配布する。 ・わかりやすいようにゆっくり読む。
	4　幕下まで転落した時の気持ちを考える。 ○幕下まで転落した時、どんな気持ちだったのだろうか？	・くやしい ・相撲を続けていけるかな。 ・早く上がりたい。	・屈辱を味わっている様子を強調する。
	5　力士生活最大の危機の時の気持ちを考える。 ◎「もうこのまま相撲が取れないかも。」という言葉からどんな気持ちがあったのだろうか？ △「（もう相撲を取れない）かも」と言っている言葉から、どんな気持ちもあるのだろうか？	【弱気な気持ち】 ・やめようかな。 ・もうだめかも。 【続けたい気持ち】 ・やっぱり相撲を続けたい。 ・このままでいいのか。	・学習プリントを配布 ・弱気な気持ちがあるとともに、続けたい気持ちにも気付かせる

	6　父親からお小遣いの話が出た時の気持ちを考える。 ○「お小遣いでもあげようか？」と言われた時、ことわったのはなぜだろうか？	・あきらめたくない。。 ・甘えたら相撲がとれないかも ・自分で何とかしたい。 ・初心にかえった気持ちでもう一度頑張りたい。	・他人に頼らないで自分で頑張る強い意志があることに気付かせる。
終末 （20 分）	7　ゲストティーチャー「谷地忠一さん」の講話を聞く。 8　感じたことや思ったことをまとめ、発表する。	・挫折から人間は一回りも大きくなる。 ・希望を持って努力をすることが大事。 ・努力の積み重ね。【行動面】 ・強い気持ち（意志）【精神面】	・くじけそうな時ほど、必要なものに視点を与え、講話を聞かせる。 ・発表する生徒のキーワードを教師が書き出す。

（3）　評価

困難を乗り越えてやり抜く強い意志の大切さを感じ取り、それを自分の課題としてとらえることができたか。

6　板書計画



7　資料分析図

主要場面	小結まで昇進した栃乃花が、けがを機に幕下に転落する。	引退をつっぱねた栃乃花であったが、幕下に転落してから思うように相撲がとれない。	父親からお小遣いの話をされるが、ことわる。	幕内の晴れ舞台に返り咲く。
主人公の心の動き	・けがで下がるのはくやしい ・もうだめかも ・もう一度上がりたい	・引退をつっぱねたから今さら後がない ・どうしよう ・もうだめかも	・お小遣いがほしい ・ここでもらえば終わりだ ・何とかしたい	・自分の相撲を取ろう ・一番一番集中して取っていこう
生徒の反応	・せっかく小結までいったのに、残念だ。	・やめるのかな。 ・頑張ってほしい。	・何でもらわないの。 ・もらえば楽になるのに。 ・強気だ。 ・本気で頑張る気だ。	・意志を貫いてすごい。 ・努力は大切だ。
気付かせたいこと	・小結まで昇進した時の生活から一変し、立場が逆転することで屈辱感を味わい、相撲を続けることへの不安がある。	・思うように相撲がとれない中で、弱気な気持ちと相撲を続ける強い気持ちがある。	・甘えたい気持ちがある中にも、甘えたら相撲を続けていけない気持ちがある。	・努力を重ねることと強い意志をもつが大切である。
発問	○幕下まで転落した時、どんな気持ちだったと思いますか？	◎「もうこのまま相撲がとれないかも。」という言葉からどんな気持ちがあったのだろうか？	○「お小遣いでもあげようか？」と言われた時、ことわったのはなぜだろうか？	○くじけそうな時ほど、何が必要だろうか？

第３学年道徳学習指導案

日　時　平成１８年１０月１２日（木）５校時
学　級　３年Ａ組（男子８名　女子１１名　計１９名）
授業者　伊　藤　　伸
Ｇ　Ｔ　救急救命士・消防司令補　久　慈　　剛　史

１　主題名　　かけがえのない命（３－（２）生命の尊重　）

２　資料名　　「長岡の奇跡」　（参考　朝日新聞・スポーツニッポン）

３　主題設定の理由

（１）価値について

内容項目３－（２）は、「生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する」である。

生命は、かけがえのない大切なものである。したがって、決して軽々しく扱われてはならない。しかし、人間は生命を空気のごとく、その存在をときとして忘れてしまうことがある。特に現代の中学生は核家族化が進む社会の流れもあり、身近な人の死に接する機会が少ない。また、死に直面した人からの体験を語り継がれる機会も少なく、「かけがえのない生命」を実感することが少なくなっている。事実、現代は生命の価値が軽んじられているとしか思えない痛ましい事件も増えてきている。

生命を尊ぶことは、かけがえのない生命をいとおしみ、自らも多くの生命に生かされていることを考えさせることが大切であると考え、本主題を設定した。

（２）生徒について

道徳の授業では、自己主張する生徒は少なく、おとなしい生徒が多いため、挙手による発表など積極的な発言は少ない。しかし、自分の考えや感想について書く活動を通して、自分なりの価値を深められる生徒は多い。

昨年度、生徒達は保健体育の授業で、「ＡＥＤ（自動体外式除細動機）を用いた応急手当」を学習した。その授業を通して、応急手当の現状や必要性を学び、その大切さを肌で感じることができた。同時に「自分たちも人命を救う手助けができる」という責任感と喜びも実感することができた。

一方で、道徳性検査「ＮＥＷ　ＨＵＭＡＮ」の結果を詳しく分析してみると、３－（２）については学級の半数以上が「生命の尊重」についての発達がやや不十分であるという傾向が見られた。ちなみに、昨年度の結果についてもほぼ同様の結果が見られた。これらの現状からも、生徒たちに「生命の尊重」について考えさせることが必要である。

（３）資料について

本資料は平成１６年に起きた新潟県中越地震によって行方不明になった３人の親子の救出劇について書かれた新聞記事を参考に、まとめた資料である。生存が絶望視されていた中で、奇跡的に生還した皆川優太ちゃんの救出のために自らの命の危険を顧みずに全力で救助にあたったハイパーレスキュー隊員の活躍や心情に触れ、「生命の尊さ」について考えさせたい。そして、たった１つの命でも何にも変え難いかけがえのないものとして自他の生命を尊重し、与えられた命を精一杯生きようとする態度を身につけさせたいと考えている。

４　指導の構想

事前の取り組みとして、「ＡＥＤを用いた応急手当」の授業で学んだことを振り返らせながら、「心のノート」（Ｐ６８～６９）を使って生命についての自らの考えをまとめさせる時間を設けた。

本授業では、導入で新潟県中越地震や優太ちゃん救出の様子について資料を用いて紹介し、授業への意欲を高めたい。

展開では、資料を読み、救助の専門家であるハイパーレスキュー隊員の人々でさえ自らの生命の危険を覚えるほど過酷な現場の状況だったことを理解させたい。また、隊員が「自分の命の危険」や「家族の心配」、「優太ちゃんを助けなければ」という様々な思いの中で揺れ動いていた心情についても考えさせたい。そして、自分の生命の尊さはもちろんのこと、他者の生命も何ものにも変えられないほど尊いものであることに気付かせたい。

終末では、展開の流れをいかし、ゲストティーチャーの久慈消防署の久慈　剛史　氏の講話や体験談を聞いて生徒の考えをさらに深めさせたい。

ゲストティーチャーの久慈　氏は、救急救命士として久慈市で活躍されている。本資料に登場するハイパーレスキュー隊員のように、人命を守るために日々尽力されている。この仕事の経験から、久慈　氏なりに考える「生命の尊さ」について、実体験を交えて語っていただきたいと考えている。久慈　氏の講話は生徒の心にも響く部分も多く、一人一人の考えを深めさせたい。
また、自らの命の危険を顧みずに人々のために尽くそうとさせるものとは何であるかも生徒に考えさせていきたい。講話を聞くことによって、レスキュー隊員のように自らの危険を顧みずに他者の命を守ろうとする人々のお陰で私たちの生命も生かされていることにも気付かせたい。

５　本時の指導

（１）ねらい

自らの危険を顧みずに救助活動を行うハイパーレスキュー隊員の姿を通して、生命を尊重する態度を育てる。また、自分も多くの生命から生かされていることに気付き、自他の生命を大切にしようとする心情を深める。

（２）本時の展開

段階	学習内容と主な発問	期待する生徒の反応	指導上の留意点
導入 （5分）	1　ゲストティーチャーを知る。 2　映像を見て、新潟県中越地震の様子や優太ちゃん救出について知る。	・Ｇ．Ｔに興味を示す。 ・凄く大きな地震だったのだ。 ・優太ちゃんの写真に見覚えがある。	・紹介は教師が行う。
展開	3　資料を読む。 4　生存が絶望視されていた中で、優太ちゃんの生存	・優太ちゃんが助かって良かった。 ・お母さんや真優ちゃんが助からなかったのは残念だ。 ・飲まず食わずで２歳児が４日間も生存できるとは人間の生命力は凄い。	・「生命力の強さ」や「自分が優太ちゃんだったら・・」という視点をもって発言させたい。

（３０分）	が確認できた時のレスキュー隊員の気持ちを考える。 ○優太ちゃんの生存を確認した時のレスキュー隊員の気持ちを考えよう。	・よくぞ４日間も生きていてくれた。 ・暗やみの中、一人でよくがんばった。 ・絶対に助け出すぞ。	・生存者がいたことに喜んでいるレスキュー隊の心情と「必ず助けだす」という強い決意を理解させる。
展 開 （３０分）	５　「自分の生命や家族への思い」と「助けなければならない」という思いの間で揺れ動いている隊員の心情を考える。 ○レスキュー隊員が危険を感じた時に家族の顔が頭をよぎったのはなぜだろう。 ６　危険を顧みずに救助活動にあたったレスキュー隊員の心情に迫る。 《学習シート》に記入する。 ◎身の危険を感じながらも優太ちゃんの救出を決意したのはなぜだろう。 今、まさに目の前に死に直面した小さな命がある。隊員はそこで何を思ったのだろうか？ ～補助発問～	・余震が続く中での救出は自らの命を落とす危険もあった。 ・自分にもしものことがあったら家族はどうなるのかという不安があった。 ・自分の命はもちろん大事であるが、それ以上に幼い優太ちゃんの命も大切だ。 ・自分が優太ちゃんを助けなければならないという強い使命感があった。 ・命というものはそれくらい大切で重いものだ。	・救助の専門家のレスキュー隊員でも危険を感じる状況だったことを理解させる。 ・２つの思いの間で揺れ動く隊員の心情も理解させる。 ・我が身を投げ出して救助しようと思うほど人の生命は尊いものだと気付かせたい。

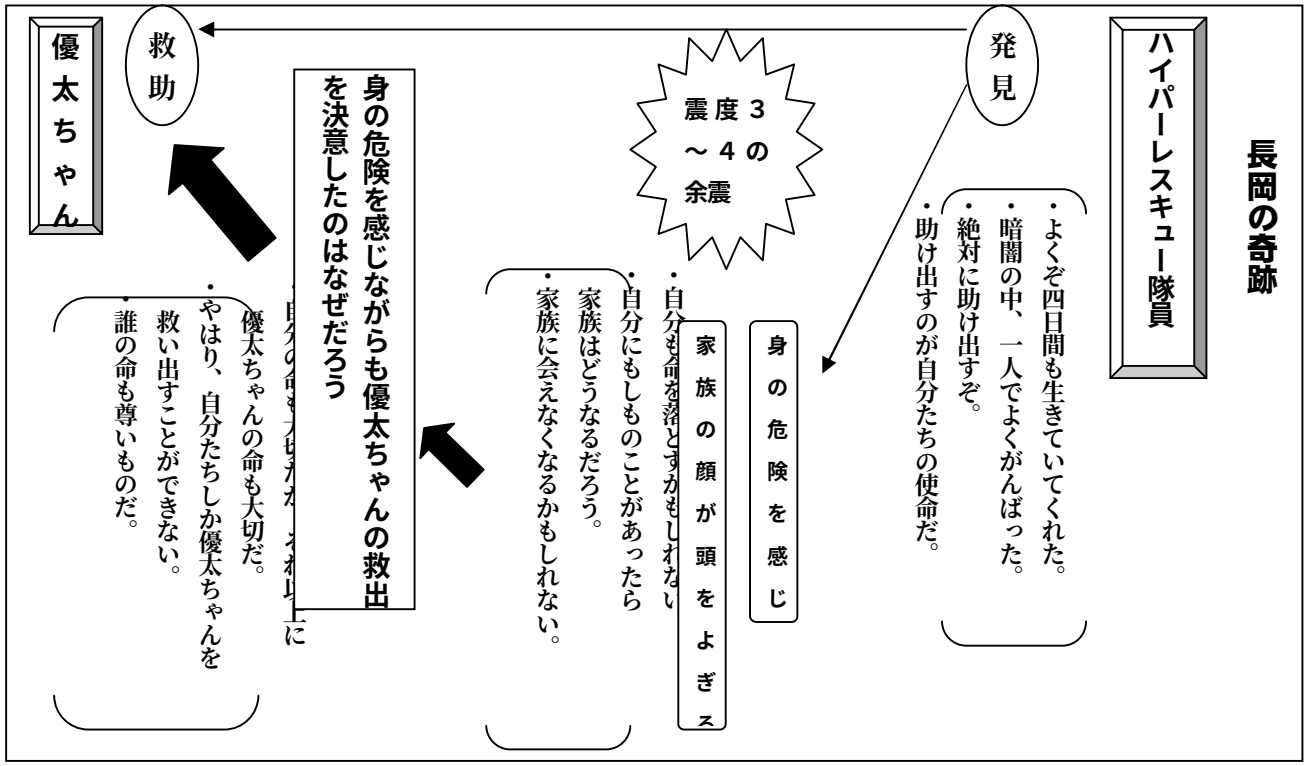
終末 （15分）	7　ゲストティーチャーの　「久慈　剛史」氏の講話を聞くと共に考えを深める。 8≪学習プリント≫の記入・発表 ○久慈さんの講話を聞いての感想を書いてみよう。	・久慈さんもやはり恐怖を感じるのだ。 ・危険な仕事だが、誰かがやらねばならない仕事である。 ・危険な仕事だが、人命を救うことができるとうれしい。やりがいを感じる。 ・生命というものの重さを考えることができた。 ・生きていく中で、自らの生命も他の生命も大切な尊いものだ。 ・多くの人の助けがあって、今の自分があることを忘れずに生きなければいけない。	・大切な言葉はメモを取らせながら講話を聞かせる。 ・可能な限り発表させる。

（3）評価

ア　自らの危険を顧みずに救助活動を行うハイパーレスキュー隊員の姿を通して、生命の重さ、大切さを理解することができたか。

イ　自分も多くの生命から生かされていることに気付き、自他の生命を尊重しようとする心情を深めることができたか。

6　板書計画



7　資料分析図

主要場面	・地震から4日が経過し、誰もが生存を絶望視されている中で奇跡的に優太ちゃんが生存していることがわかった。	・優太ちゃんを救出しようとするが、震度3～4の余震が続く。隊員自身も「家族の顔が頭をよぎり」生命の危険を感じている。	・またいつ地震が起こるかわからない危険な状況の中で慎重に救出作業を続けて、遂に優太ちゃんを救出することができた。
主人公の心の動き	・4日間も飲まず、食わずの2歳児が生存できる人間の生命力に驚いている。 ・優太ちゃんが奇跡的に生存していたことに喜んでいる。 ・「絶対に助け出すぞ」と強く決意している。	・また大きな地震が起こったならば、自分たちの生命も危ないと身の危険を感じている。 ・自分たちに何かあったならば、家族はどうなるのかと不安を覚えている。	・優太ちゃんの声を聞いて、改めて「助けなければ」と思い、恐怖心が消えた。 ・優太ちゃんを救えるのは自分たちしかいないのだと改めて強い決意と使命感をもって救出活動を続けている。
生徒の反応	・4日間生き続けていた優太ちゃんの生命力は凄い。奇跡だ。 ・暗闇の中、一人で良くがんばった。	・救助の専門家であるレスキュー隊員の人たちでも怖いことがあるのだ。 ・余震が続く中での救出は危険だ。レスキュー隊員の不安は当然だ。 ・もし、隊員に万が一のことがあれば、家族はどうなるのだろう。	・優太ちゃんが無事に救助されて本当に良かった。 ・我が身の危険や家族の事を思いながらも救助活動を行ったレスキュー隊員はさすがだ。 ・レスキュー隊員の勇気ある行動が優太ちゃんを救った。
気付かせたいこと	・過酷な条件の中で、生存者がいたことに喜んでいるレスキュー隊員の心情と、「必ず助け出す。」という強い決意を理解させる。	・余震が続き、救助の専門家であるレスキュー隊員でも恐怖を感じるほど危険な状況であった。 ・「自分に万が一のことがあれば家族はどうなるのか」という思いと「助けなければ」という思いの間で揺れ動いている隊員の心情を理解させたい。	・我が身を投げ出して救助しようと思うほど人の生命は尊いものなのだと気付かせたい。 ・不安や恐怖よりも、目の前にある、死と直面した小さな命の重さが何ものにも変えられない大切なものであるということを知る。
発問	○優太ちゃんの生存を確認した時のレスキュー隊員の気持ちを考えよう。	○レスキュー隊員が危険を感じた時に家族の顔が頭をよぎったのはなぜだろう。	◎身の危険を感じながらも優太ちゃんの救出を決意したのなぜだろう。

「長岡の奇跡」学習シート

３年　A組　　番　　氏名

１．身の危険を感じながらも優太ちゃんの救出を決意したのはなぜだろう？

２．久慈さんの講話を聞いての感想を書いてみよう。